

活動履歴と今後の予定

10/6 清水沢東3号棟芋煮会
 10/7 清水沢東集会所サークル懇談会
 10/15 第3回理事会
 10/19 荒井東住宅居住実態調査報告会
 錦町東住宅役員会
 10/20 北浜住宅一斉清掃
 きたはま食堂(みやぎセントラルキッチン協力)
 あすと第三住宅みのり会草刈り&芋煮
 玉浦西地区ハコビをつくろう!
 10/26 北浜住宅役員会
 10/28 高齢者サポートチームしおたがネットワーク会議
 10/29 塩竈市ふれあいサポートセンターネットワーク会議
 11/9 たいはく区民の会の集い登壇
 錦町食堂(仙台白百合女子大協力)
 錦町東住宅役員会
 11/10 錦町東住宅芋煮会
 11/23 伊達市炊き出しボランティアツアー
 11/25 八本松児童館協働企画会議
 12/7 伊達市炊き出しボランティアツアー
 錦町東住宅役員会
 12/8 玉浦西地区花壇づくり&芋煮会
 12/14 北浜住宅役員会
 12/15 シェアハウス長町南鍋パーティ
 12/15 荒井東住宅役員会
 12/17 第4回理事会
 12/22 荒井東住宅クリスマス会
 錦町東住宅花壇の手入れ

あすと食堂
好評開催中です!

〈これまでの内容とこれからの予定〉 *カッコ内は調理担当団体です。

10/5 あすと第三食堂(ほっと亭)
 10/14 あすと第二食堂(仙台白百合女子大学)
 11/2 あすと第三食堂(仙台男子厨房に入ろう会)
 11/16 あすと第二食堂(アルンさん)
 12/22 あすと第三食堂(仙台白百合女子大学)

お気軽に
ご参加
ください!

会員数
正会員 賛助会員
36 24
(±0) (+1)

f facebook
いいね!数
491
(+25)

2019年12月1日 現在(前号比)

入会のご案内／寄付のお願い

つなセンでは、あすと長町を拠点としつつ、そこで培われた復興コミュニティデザインの経験を、東日本大震災の被災地や熊本など他地域へ伝えるべく、活動しています。民間非営利の立場で、枠にとらわれずに機動的に活動を続けていくためには、皆さまからの会費や寄付が大きな支えとなります。会員として、又は寄付を通じて、ぜひ応援をお願い致します。

継続的に応援するには

正会員又は賛助会員にご入会ください。
 ・正会員:年間6,000円・総会議決権あり
 ・賛助会員:年間3,000円・総会議決権なし

寄付のお振込先

〈口座名義〉特定非営利活動法人つながりデザインセンター・あすと長町
 ●郵便振替:02230-8-121908
 ●銀行振込:ゆうちょ銀行 二二九支店(ニニキュウ) 当座預金 0121908

会員団体のみなさま

@グリーン(宮城大学ボランティアサークル) 安全安心なまちづくり 一般社団法人 日本で・あーて推進協会 NPO法人 クラップス
 NPO法人 アートワークショップすんぶちよ NPO法人 仙台傾聴の会 NPO 都市住宅とまちづくり研究会
 NPO法人 東日本ネットワーク手にぎり隊 NPO法人 みやぎ「こうでねい」と 株式会社 ミツイ 共立女子大学 高橋研究室
 グループひまわり CASEまちづくり研究所 高齢者配食サービス「ほっと亭」 今野不動産 株式会社
 仙台白百合女子大学 佐々木研究室 仙台南健康友の会 つばさ薬局 長町店 東北工業大学 新井研究室
 東北大学 東日本大震災PGT支援機構 東北福祉大学 平泉研究室 東北学院大学 坂本研究室 都市建築設計集団/UAPP
 長崎大学 安武研究室 日本ヨーガ療法学会 認定療法士会みやぎ
 宮城厚生協会 長町病院 みやぎ生活協同組合 宮城大学 森本研究室 有限会社 栗駒建業

役員名簿

代表: 平泉 拓
 副代表: 新井 信幸
 副代表: 薄田 榮一
 理事: 宮本 愛
 理事: 加藤 涉
 理事: 森山 英子
 監事: 坂本 泰伸
 監事: 佐々木 裕子

編集後記

2019年は、新たな被災地でこれまでの活動で得られた教訓や経験をどう活かせるか、そう考えることが多かった一年でした。先日の某学会シンポでは、「復興で得られたものを次の復興でどう活かすかの前に、平時にどう活かすかが大事である」といった議論がありました。復興だけを対象化してもものを見てはいけなことを痛感しました。新たな年では、そうした意識をもちながら、孤立を防ぐコミュニティづくりなどの実践と理論の深化に努めていきたいと思います。(新井)

特定非営利活動法人

つながりデザインセンター・あすと長町

〒982-0011 仙台市太白区長町六丁目4番17-502号

TEL 080-3205-5177
 MAIL asuto@tsuna-cen.com
 WEB www.tsuna-cen.com

GOOD DESIGN AWARD 2018

つなセン
TSUNAGARI Design Center
NEWS13
2019.12

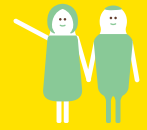
子たちといっしょに大人も楽しめる、そんな「みんなの居場所」に(玉浦西・西集会所)

アイデアを持ち寄って居場所づくり

災害公営住宅の集会所を「みんなの居場所」に
 荒井東住宅・居住実態調査報告会
 北浜住宅一斉清掃&食堂開催
 伊達市炊き出しボランティアツアー
 玉浦西・多世代交流活動
 【団体紹介】株式会社ミツイ

活動報告

Main Topic



「みんなの居場所」に

災害公営住宅の集会所

つなセンでは、災害公営住宅の集会所は、孤立を防ぐ「みんなの居場所」となる貴重な地域資源であると考えています。しかし、被災各地では、管理運営がうまくいかず、あまり使われていない実情が浮かび上がっています。そこで今回は、つなセンが考える集会所が「みんなの居場所」となるための基本条件と管理運営方法のポイントをお伝えします。

1 つながりには多様性

つなセンの取り組みの原点でもある「あすと長町仮設住宅(仙台市)」では、ほぼ毎日、様々な外部団体によって集会所でお茶会やイベントが開催されて

いました。その頃、各団体からは、参加者が固定客化してつながりが広がらないという声が多く聞かれました。一方で、参加者はそれぞれの活動で少しずつ顔ぶれが異なっていました。「この人がいるお茶会には参加したいけど、あの人がいるのにはねえ・・・」とつぶやく方もいました。要するに、あすと長町では、個々の活動は固定客化していても、多様な主体が活動していたため、多様な相性が存在し、結果的に多様なつながりが生まれていたのです。まさに「みんなの集会所」という状況が出現していました。そうしたことから、集会所はできるだけ外部に開いて「つながりの多様性」を確保できるよう工夫していくことが大事なんだと、私たちは思うに至りました。

では、「みんなの居場所」とするための具体的な管理運営のポイントには、こういった方法があるのでしょうか。



▲ 下足のままで気軽に入ることができる集会所は、いろんな世代が集まります。(あすと長町市営住宅)



▲ 季節の行事も集会所で。七夕かざりづくりを楽しみました。(あすと長町仮設住宅集会所)



▲ 復興住宅計画提案づくりのワークショップの様子。日ごろから集まるご近所さんとともに、将来像を共有します。(あすと長町仮設住宅集会所)

2 受益者負担の利用料金制

集会所には水光熱費などの維持費がかかります。これを自治会費から払っていくと、なるべく利用を控えようという力学が働いてしまいます。それを防ぐには、利用料を設定し、予約して利用する人(団体)にも維持費を負担してもらうことが大事になります。すでに料金制を採用している公営住宅も少なくありません。それらは半日300円～500円程度が多いようです。

3 居場所ブックレットを配布してます！

その他にも、予約を簡便にして利用を促進する方法、鍵の開閉の煩わしさを解消する方法など、大事なポイントがいくつかあります。ここでは紙面が限られるため、それらを簡潔にまとめた居場所づくりブックレットを発行してますので、ご関心のある方は、つなセン事務局までお問い合わせください。



▲ブックレットでは、集会所を活用した居場所づくりのハード・ソフトのポイントを分かりやすく紹介しています。

会員
団体紹介
No.13

株式会社ミツイ



株式会社ミツイは2014年に設立し、「生まれてから最期までをサポートする」を理念に保育、障害者支援、高齢者介護など多世代に渡るサービス事業を展開しています。つなセンが活動しているあすと長町第二市営住宅の向かい側には、運営するりっきーぱーく保育園があり、先日のハロウィンには園児達が仮装して、集会所で開催中の「カフェラン」に遊びに来てくれました。同場所で開催中の「すんぶちゅ食堂」には、りっきーぱーくの先生方がお仕事終わりにご家族で参加され、住民と一緒に食卓を囲むなど、世代を超えてゆるやかな交流が始まっています。

また、事業の多様性だけでなく、従業員の働き方、キャリア形成にも様々な工夫を凝らし、その取り組みが高く評価され、仙台『四方よし』企業大賞や、グッドキャリア企業アワード2019では厚生労働大臣表彰を受賞されました。ゼネラルマネージャーの佐藤大介さんからは「同じ地域にある仲間として、今後も様々な連携を図りながら地域活性化に取り組みでいけたら幸いです」とコメント頂きました。

Topics

荒井東住宅・居住実態調査報告会

北浜住宅一斉清掃&食堂開催

伊達市炊き出しボランティアツアー

玉浦西・多世代交流活動

つなセンでは、災害公営住宅の支援に入るにあたり、お住まいの方々の属性やコミュニティの状況等を把握するため、はじめに居住実態調査を行っています。荒井東住宅でも今年8月に全298世帯を対象としたアンケート調査を行い(回収率64.4%)、10月に報告会を開催しました。調査結果では、日常生活の中で気軽に会話する相手が「特にいない」という回答が4



割近く、また集会所を利用したことがない方が66%に上るなど、他の住宅と比してもコミュニティ形成が進んでいない状況が明らかになりました。今後は、集会所での居場所づくり等を通じて、つながりをつくる取り組みを支援していきます。

10月20日、北浜住宅にて一斉清掃が開催され、住民約20名が集まりました。階ごとに班長が指揮を取り、共用廊下や階段、エレベーターホールなどを清掃しました。住民からは、初めて顔を合わせる人もおりよい交流になったとの声が聞かれました。お昼からは集会所にてきたはま食堂が開かれました。メニューは天津飯とサラダ、スープ、デザート。仙台を中心に高齢者施設などへ給食サービスを行っているみやぎセントラルキッチンシェフたちが料理の腕をふるいました。これまでで最多となる16名の住民が来店し、食事後も会話をしむ姿がみられ、少しずつ集会所が住民の居場所となってきました。



台風19号被災地支援として、日本国際・サポーター・プログラム(JISP)、アートワークショップすんぶちゅの協力を得て、炊き出しボランティアを実施しました。伊達市は、阿武隈川の支流である広瀬川の氾濫により約1,000棟の家屋で床下・床上浸水。集約され市内唯一となった梁川寿健康センターの避難所には11月時点で100名近い方が寝泊りをされていました。



おにぎりやお弁当の食事が続いていると、11月はおしるこ、12月はお雑煮を炊き出しました。お雑煮はあすと食堂で活躍しているほとと亭の皆さんに足を延ばしていただき50食を準備。温かい汁物とつき立てのお餅を喜んでいただきました。

玉浦西地区では、集会所の利用促進と多世代交流のための支援を行っています。まずは若年層が興味を持つイベントの企画・参加を促し、若年層の親が同伴することで、親同士の交流を図ることもできると考えました。また企画するイベントの内容でも、色々な年齢層が楽しめることを目的に、普段は触れることの少ないダンボールや廃材を活用したり、昔遊びの駒回しやお手玉・カルタを行ったことで、じっちゃんばっちゃんも遊びに加わり、子供たちに手ほどきをしてもらいました。子供たちが苦戦する中「さすがじっちゃんばっちゃん」「じっちゃんばっちゃん、すごい」といった交流をつくこともできたと感じています。

